

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 博物館における在住外国人を対象とした「やさしい日本語」の展開に関する一考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高尾, 戸美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/0002000487">https://doi.org/10.57529/0002000487</a>

# 博物館における在住外国人を対象とした 「やさしい日本語」の展開に関する一考察

## A Study on the Development of “Easy Japanese” for Foreign Residents in Museums

高尾 戸美

TAKAO Hiromi

### はじめに

2021年度の社会教育調査によると、日本の博物館数は登録施設及び相当施設に類似施設をあわせて5,771館あり、その数は国内の社会教育関係施設の6割弱を占めている<sup>(1)</sup>。2022年に採択されたICOM（国際博物館会議）による新たな博物館の定義、博物館法の改正といった国内外の動向の中で博物館は社会においてその存在意義や必要とされる役割・機能に変革が求められている<sup>(2)</sup>。文化審議会博物館部会法制度の在り方に関するワーキンググループは、現代社会における博物館の存在意義として新たに地域の社会的課題に向き合うことで地域とのつながりを醸成すること、社会的包摂を必要とする人々の居場所として地域の福祉の増進に寄与すること、その例として地域の福祉（健康・幸福、生活の質）の向上への貢献、社会的包摂、相互理解、多文化共生への寄与、地域社会の活性化を挙げている<sup>(3)</sup>。また博物館の新たな役割・機能の5つの方向性として、資料の保護と文化の保存・継承、資料の展示、多世代への学びの提供、社会や地域の課題への対応、専門的人材の確保、持続可能な活動と経営の改善向上を示している。

筆者は日本で生活する外国人の増加に着目し、2019年より社会的包摂および地域における多文化共生の観点から博物館利用者として日本で生活する外国人を対象にやさしい日本語を用いた研究と実践を行ってきた<sup>(4)</sup>。やさしい日本語とは、日本語を母語としない外国人など日本語を学習中の人でもわかりやすく表現した日本語のことである（詳細は後述する）。2020年に筆者がアンケート調査を行った際、やさしい日本語を導入している施設は数多くなかったが、この数年で様々な形で展開されるようになってきている。本稿では、広がりを見せつつある国内の博物館におけるやさしい日本語の普及状況を把握するためのプレ調査として、博物館におけるやさしい日本語の展開状況について博物館の公式ウェブサイトから情報の収集・整理を行う。なお対象については博物館法第二条の定義に基づく登録施設及び相当施設に類似施設を加えたものとした。また、情報を補うために一部関係者に対してヒアリング調査を行った。それらのデータの考察を通じてやさしい日本語の活用傾向を分析するとともに、やさしい日本語を利活用する上での課題と今後の展望について報告する。

### 1. 国内の外国人・在住外国人

外国人とは出入国管理及び難民認定法（以下入管法と記す）第二条の定義によれば「日本の

国籍を有しない者」をいう。日本で生活する外国人は、在住外国人、在留外国人、外国人市民、外国人定住者などと表現され、いずれの表現も行政により使用されている。以後、本稿では日本で生活する外国人については「在住外国人」を用い、その定義を幕田（2019）の「外国籍の保有の有無に関係なく、帰化者や保護者の一方が外国籍であるその子どもなども含む外国の文化的背景を持つ在住者」とする<sup>(5)</sup>。また、外国籍を有せずに外国の文化的背景を持つ人たちについては「外国にルーツを持つ人」と称する。ただし本定義に該当する在住外国人の統計は存在しないことから日本で生活する外国人に関する数値を扱う際は出入国在留管理庁による在留外国人の値を用いる。

国によると、2023年6月末現在の在留外国人数は中長期在留者数293万9,051人、特別永住者数は28万4,807人であり、その総数は322万3,858人と過去最高を更新している。2013年末の在留外国人数は206万6,445人であったことから10年で約116万人も増えていることになる。在留外国人が増加した背景には、2018年出入国管理及び難民認定法の改正（2019年施行）、2019年留学生30万人計画達成などがある<sup>(6)</sup>。新型コロナウイルスによるパンデミックの影響により鈍化していた世界中の人々の移動も2023年5月に世界保健機構（WHO）による新型コロナウイルス収束宣言により復活の兆しを見せていることから、今後はさらに在住外国人が増加していくことが予想される。

## 2. 博物館の多言語化対応

博物館の利用者としての外国人は、住民か否かという視点で考えると観光客と日本での生活者に分類することができるが、博物館界の規範では観光客限定で捉えられることがほとんどであった。その理由としては、多くの博物館で外国人の利用者数を正確に把握できていないこと、さらに住民かどうかを問うことの難しさが挙げられるだろう<sup>(8)</sup>。そのため、博物館が外国人に対して取り組んできたことといえば多言語化である。公益財団法人東京都歴史文化財団は、多言語化対応の考え方として、施設の性格の見極めやアクセシビリティ（誘導・サービス案内・ルール注意）の向上とコンテンツ（魅力の伝達の役割）異文化理解について述べている<sup>(9)</sup>。また佐々木（2020）は多言語化について、観光と多文化共生の二つの視点を持つ必要性を述べている<sup>(10)</sup>。望ましい手順で行われた多言語化が観光客としての外国人と在住外国人のどちらにも有効な言語であることはいままでもない。

公益財団法人日本博物館協会が加盟館を対象に実施した令和元年度日本の博物館総合調査（2020）によると、コロナ禍以前の国内ミュージアムにおける外国人の利用状況については、全回答施設2,314館中、4割の施設が増加傾向と回答しており、水族館、動物園、植物園、美術館では5割を超えている。それらに対応するように美術館、動物園、水族館では4割以上が多言語対応していることがわかる。その他、全体のおよそ半数が館内・展示案内パンフレットの多言語化を行っているが、スマートフォンなど端末を活用した情報提供は1割程度、人的対応は1割強、外国語によるツアーの実施は4%であり人や機材による対応は未だ進んでいない<sup>(11)</sup>。しかしながら、2011年に観光庁が行った博物館等の文化施設に対する外国人のニーズ調査では、利用を促進するためには単純な案内・解説の多言語化に加え、人的対応、外国人に

とって魅力的なプログラム、サービス等の展開の必要性を指摘していることからコミュニケーションを伴う人的対応の重要性が伺える<sup>(12)</sup>。また、国が推進する文化観光の観点からも外国語による情報の提供、観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業の強化を掲げていることから多言語化についてはさらなる対応が必須となるであろう。

多言語化の際に使用される言語については、英語、中国語、韓国語の順で導入されており、英語はほぼ100%導入されている<sup>(13)</sup>。なお観光客としての外国人の国・地域は約8割がアジア圏から来日している。また、在住外国人の国籍・地域195のうち、その上位10カ国（271万1,522人）の中で英語を母語とする国はフィリピン（4位）と米国（9位）のみで上位10カ国人口の約14%に過ぎないという現状がある。国際的共通語として英語の導入は海外の博物館でも一般的であるが、在留外国人の総人口の第2位がベトナムになった今、第2第3の多言語の選択は、博物館自身が観光か多文化共生のどちらかのアプローチを優先するかによって検討する必要がある<sup>(14)</sup>。

### 3. やさしい日本語と博物館

#### (1) やさしい日本語とその普及背景

国立国語研究所が2009年に実施した調査によると、回答した1,662人の在住外国人のうち約6割が日常生活に困らない言語として日本語を選んだという結果が示されている。さらに、一般社団法人東京都つながり創生財団が2022年に実施した「やさしい日本語を活用した在住外国人への情報伝達に関する調査」によると、回答者（関東在住の205名）におけるやさしい日本語の認知度は約7割、やさしい日本語による情報提供を望む人は8割強であった<sup>(15)</sup>。

やさしい日本語とは、日本語を母語としない外国人や日本語を学習中の人でもわかりやすく表現した日本語のことである。阪神・淡路大震災の際、日本語の情報がわからないことが原因で多くの外国人の犠牲者が出たことから減災のために考案された<sup>(16)</sup>。やさしい日本語の「やさしい」には、多様な文化背景を受容する「優しさ」と文法や内容の「易しさ（分かりやすさ）」の2つの意味がある。今日、やさしい日本語は在留外国人人口の増加及び多国籍化の対応として、国の施策としてその導入がロードマップに記されている。出入国在留管理庁及び文化庁では、書き言葉と話し言葉に関するガイドラインを作成し、災害発生などの非常時だけでなく平時の行政サービスなどで導入を進めている。また医療現場などでも導入され始めており、民間への普及も期待されている。この他、わかりやすさという視点から知的障害者、ろう者、子どもから高齢者など多様な人々に向けて使われている<sup>(17)</sup>。あわせて、外国にルーツを持つ人たち、とりわけ子どもについては学校教育現場において日本語指導が必要な児童生徒の増加が問題となっていることからやさしい日本語の普及が期待されている。

#### (2) 博物館におけるやさしい日本語の展開

前述の公益財団法人日本博物館協会の調査によると、やさしい日本語の対応をしているところは、2,314館のうちわずか3.5%（8館）であった。通常業務だけでも多忙を極め、かつ限られた博物館の人的資源を元にマイノリティに向けた事業を展開するには行政や設置者の方針あ

るいは当事者からの相談がなければ着手が難しいと考えることは容易い。

ここからは、各館の公式ウェブサイトから収集した情報をもとに国内の博物館におけるやさしい日本語の取り組みについて述べる。

### ①調査概要

本調査対象は、博物館法第二条の定義に基づく登録施設及び相当施設に類似施設を加えた博物館が公式に運営するウェブサイトであるが、あらかじめ筆者が主体的にやさしい日本語の活動を展開していると確認済みの施設に加え、検索エンジンGoogleで取り組みを確認できた32件とした(表1)。公式ウェブサイトで情報を確認できた28件については2023年12月の時点の情報、その他3件は個別調査による情報を用いた。さらに東京国立博物館の留学生の日については、博物館教育課長にヒアリング調査を行った。なお、調査対象の取り組みには「やさしい日本語」として明示していないが解説文の表現としてやさしい日本語に該当する表現を用いるソーシャルストーリー及びソーシャルナラティブも含めている<sup>(18)</sup>。

### ②調査結果

各館のやさしい日本語をとりいれた活動について、a. イベント、b. 展示、c. 印刷物、d. ウェブサイト、e. 職員研修の5項目についてそれぞれの傾向を示す。

#### a. イベント

やさしい日本語を用いたイベントは、2012年から2023年の間に10館が実施、各館が実施また、各館の個別イベントの回数は52件である。カウント方法は同一の内容であっても別日に実施したイベントは1回と数えた。

実施地域については、関東が約6割、その他はほぼ九州で実施されていることがわかる(表2)。館種は歴史系博物館が半数を占め、科学館、美術館が4分の1ずつ開催している(表3)。イベントの実施地域には学芸員や行政職員を対象としたやさしい日本語の研修が行われていたことが影響していると考えられる。

イベントの実施数については、2018年から増加し、2022年以降件数が大幅に増加している(表4)。調査内で最も早く実施されたイベントは、2012年に東京国立博物館(以下、東博と記す)が行った留学生の日イベント内でボランティアの自主企画グループが行ったやさしい日本語に配慮した展示ガイドである。東博の留学生の日イベントは、留学生に日本の文化を知ってもらうきっかけづくりを目的に2003年から実施されている。主な内容は研究員による講演会、ボランティアによるお茶会、多言語展示ガイドなどである。やさしい日本語によるガイドを実施するにあたり、ボランティアに対して研修や細かな指導は行わなかったが、グループが希望した場合は内容確認や実施に対する助言を行っている。2015年以降は、博物館側がボランティアに対してわかりやすい日本語の指針を示し、以後各グループが指針に基づき創意工夫をしながら継続して活動を行っている<sup>(19)</sup>。この他、継続的にやさしい日本語のイベントに取り組んでいる施設としては、2019年から多摩六都科学館、東京都美術館、2021年から東京都庭園美術館、長崎歴史文化博物館、2022年から福岡市美術館がイベントに継続的に取り組んでいる。長崎市歴史文化博物館では、2ヶ月から3ヶ月に一度の頻度で外国人のためのギャラリートークを開

博物館における在住外国人を対象とした「やさしい日本語」の展開に関する一考察

催している。2023年から九州国立博物館も年内に複数回実施している。

イベントの内容については、やさしい日本語で展示解説を行うギャラリートークや展示ガイドが多く、次いで参加者が作業を行うものとなっている（表2）。館種別では歴史博物館は解説活動、科学館はプラネタリウム解説、そして実験やICTを用いたものづくりなどの体験型、美術館では作品鑑賞を通じてスタッフや参加者同士がやさしい日本語でコミュニケーション活動が特徴といえる。筆者は2023年11月に岡山県立美術館でやさしい日本語でアートを楽しむワークショップ「伝統工芸でつながるあなたと私の部屋」のプログラムデザイン及び講師をつとめた。ワークショップには岡山大学の留学生、やさしい日本語に興味のある日本人の計10名が参加した。スタッフも参加者も皆がやさしい日本語で話すこと、そして特別展「日本伝統工芸展」岡山展の会場内で伝統工芸の技法の一つである「陶芸」に注目して鑑賞すること、自身の視点で作品を言語化し他者と共有する構成とした。

イベントの名称は、やさしい日本語をはっきり示すものが半数を占めた。その他は対象者を明確にするために外国人、留学生を入れており、やさしい日本語とこれらを組み合わせるケー

表1 やさしい日本語を取り入れた活動を行っている博物館とその展開項目

	イベント	展示		印刷物			ウェブサイト		職員研修
		常設・掲示	企画展	パンフレット	ガイドブック	その他	基本情報	イベント情報	
1	小樽市美術館	○2023	○						
2	東京都庭園美術館	●2021							
3	東京都美術館	●2019			○				○****
4	東京都現代美術館		○***						
5	東京都渋谷公園通りギャラリー				○		○		
6	江戸東京たてもの園				○				
7	東京国立博物館	●2012							
8	国立科学博物館			○					
9	国立西洋美術館					○***			
10	東京国立近代美術館					○***			
11	国立新美術館					○***			
12	国立映画アーカイブ					○***			
13	多摩六都科学館	●2019			○	○	○	○	○
14	浜松市科学館								○
15	三重県立美術館					○***			
16	新潟県歴史博物館		○****						
17	国立工芸館					○***			
18	京都国立博物館	○2022*			○	○			
19	京都国立近代美術館					○***			
20	国立国際美術館					○***			
21	大阪市立東洋陶磁美術館						○		
22	大阪市立美術館						○		
23	大阪市自然史博物館						○		
24	大阪市歴史博物館						○		
25	ポーダレス・アートミュージアムNO-MA		○		○***				
26	京都文化博物館		○****						
27	岡山県立美術館	○2023							
28	林原美術館		○****						
29	九州国立博物館	●2023**	○						
30	福岡市美術館	●2021			○				
31	長崎歴史文化博物館	●2021						○	
32	北九州市立自然史・歴史博物館		○						

〔凡例〕 イベント：○は実施（実施年）、●は継続実施（開始年）を表す。その他の項目は導入あるいは実施しているものを○とした

\*同館の留学生の日は東京国立博物館と同時期に始まっている。やさしい日本語の取り組みがウェブサイトで確認できたのは2022年である

\*\*同館では2013年の留学生の日でもやさしい日本語の取り組みがあったことが確認されたが2014年～2022年まではウェブサイトでは不明である

\*\*\*ソーシャルストーリー、ソーシャルナラティブの表現としてやさしい日本語が使用されているもの

\*\*\*\*ウェブサイト以外の情報

博物館における在住外国人を対象とした「やさしい日本語」の展開に関する一考察

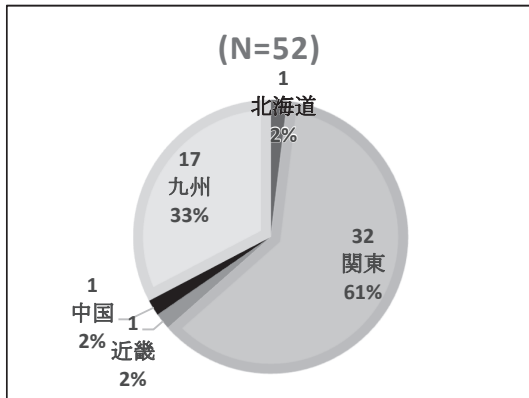


図1 イベント開催地域

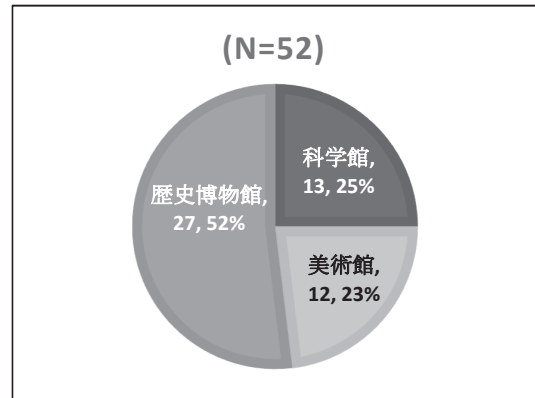


図2 館種

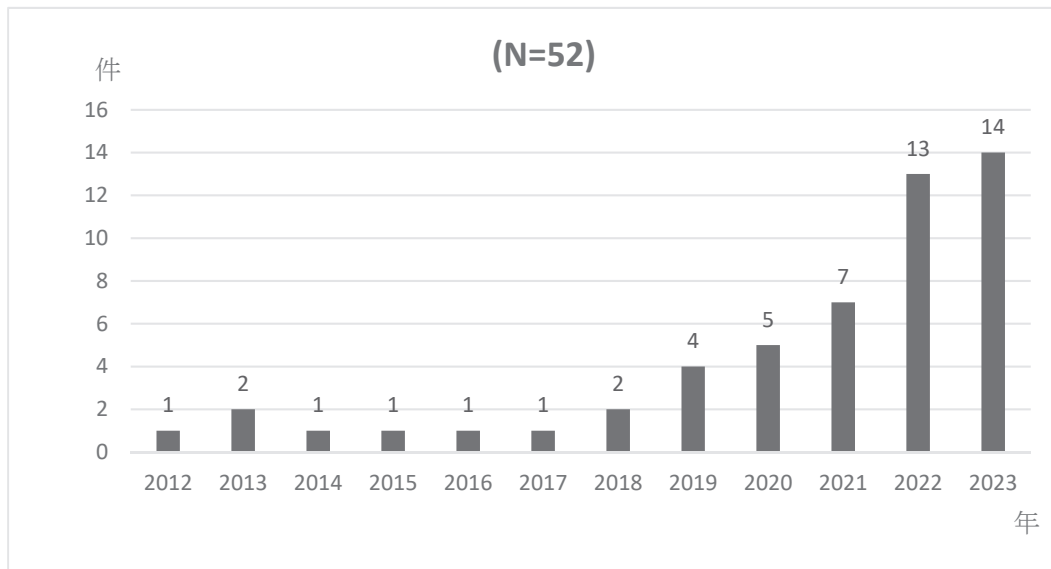


図3 やさしい日本語イベント実施件数

表2 イベントの内容

イベントの内容	件数
やさしい日本語を学ぶ	3
ギャラリー／展示ガイド	22
鑑賞	10
工作／ワーク	20
プラネタリウム	6
講演会	1

件数は複数回答

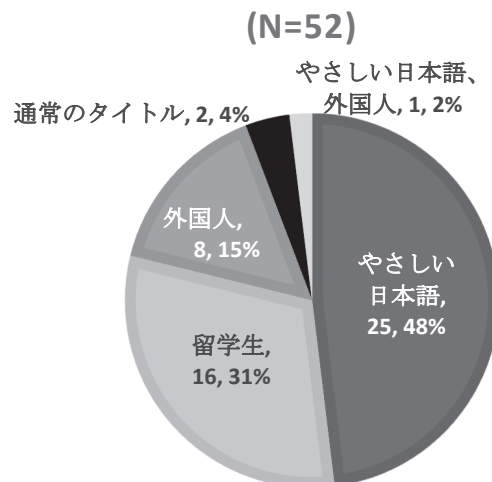


図4 イベント名称の要素

もあった。言語・対象を入れない通常のイベントタイトルの2件は、やさしい日本語を用いてプログラムを展開することをチラシの中でわかりやすい場所に示していた(表2)。

#### b. 展示(常設・企画展)

やさしい日本語を展示に取り入れている博物館は少なく、期間の短い企画展の一部の解説として展開する例が見られる。常設展示にやさしい日本語解説を早期に導入したのは、北九州市立自然史・歴史博物館である。同館は、2015年に助成を活用したユニバーサルミュージアム化事業の一環として館内の展示10箇所によさしい日本語の解説パネルを設置した。2023年には、九州国立博物館が4階文化交流展示室内のマップによさしい日本語を採用している<sup>(20)</sup>。ボードレス・アートミュージアムNOMAでは、2023年10月7日から12月17日まで開催された企画展「触の祭典『ユニバーサル・ミュージアムさわる!めぐる物語』」の作品解説に、普通の日本語、英語、点字、音声解説用二次元バーコードに並び、「やさしい言葉で読む」としてやさしい日本語解説を実施していた。また、東京都現代美術館で2023年7月15日から11月15日に開催された「あ、共感とかじゃなくて。」の展示室の過ごし方紹介の中でもやさしい日本語が使用されていた<sup>(21)</sup>。

#### c. 印刷物(パンフレット・ガイドブック・その他)

やさしい日本語を導入しやすいものとして施設を紹介するパンフレットがある。パンフレットは施設の一般的な情報で構成されるため、多言語化の拡大版として外部委託で作成することもできる。国立科学博物館では、「やさしい館内ガイド」と称し、やさしい日本語の表現として漢字すべてにルビを振ること、語と語、文節と文節の間を空ける「分かち書き」をすること、学術的ではない一般用語は小学校低学年程度を意識した語彙を用いるという考え方3点に基づき作成している<sup>(22)</sup>。

展示解説系のガイドブックは、伝えるべき内容の再解釈が重要となる。多摩六都科学館では常設展示の見どころガイドを作成した(図5)。その際、展示室で解説を担当しているインタープリターが翻訳用の日本語の文章を作成し、やさしい日本語化については外部に委託をした。しかし、科学的に伝えたいことをやさしい日本語で表現する難しさに直面した。歴史や科学等分野におけるやさしい日本語化の導入については学術的に齟齬が無いようにしつつ分かりやすい表現が求められる。なお、同館では武蔵野大学しあわせ研究所と連携して村澤研究室と共同開発によるやさしい日本語のワークシートも作成している。

この他、特記すべきものとして、ソーシャルストーリーがある。国立アトリサーチセンターは2023年に作成した国立美術館7館のソーシャルストーリー「Social Story(ソーシャルストーリー)はじめて美術館にいきます。」を公開した。ボードレス・アートミュージアムNOMAの「やさしい美術館ガイド」では、ガイドの特徴について、短い文章、わかりやすい表現、漢字・カタカナ・アルファベットにふりがな、見やすい文字の形、図形や記号・写真による説明としており、これらはやさしい日本語の考え方と重なる。三重県立美術館の「ソーシャル・ガイド」にも分かち書きや漢字への総ルビなどやさしい日本語で用いる表現が取り入れられている<sup>(23)</sup>。





図5 「展示室でDo Science!」(やさしい日本語版)多摩六都科学館

#### d. ウェブサイト

多摩六都科学館では2020年からやさしい日本語で基本情報を公開している<sup>(24)</sup>。同館のコンテンツは外部委託により作成されたが、毎月更新するやさしい日本語のイベント情報については館内のスタッフが作成している。長崎歴史博物館では、やさしい日本語イベントお知らせを3カ月毎に作成して掲載をしている。また企画展に関する情報をやさしい日本語で詳細に紹介しているのは東京都渋谷公園通りギャラリーである。2023年以降の企画展から対応しており、関連イベントの一部についてもやさしい日本語化している<sup>(25)</sup>。

#### e. 職員研修

施設が単独で職員研修を実施するケースは少ないが、多摩六都科学館が2020年に書き言葉、2021年に話し言葉の研修を連続して実施、浜松市科学館が2022年に実施している<sup>(26)</sup>。また、東京都美術館ではアートコミュニケーター向けに研修を行っている。研修内容としては、講義のみあるいはやさしい日本語への書き換え言葉のワーク、在住外国人を対象にしたコミュニケーションワークなど実践的なものがある。いずれも外部から講師を迎えて実施している。また2019年以降九州地区や東京では博物館職員を対象とした様々な研修が行われている。受講者たちが各館に成果を持ち帰って様々な取り組みにつなげていることが推測される<sup>(27)</sup>。

#### おわりに～まとめと今後の展望～

国内の博物館におけるやさしい日本語の取り組みについて、公式ウェブサイトの情報を元に5項目の傾向について考察してきた。今回の調査では、博物館におけるやさしい日本語の取り組みは、2012年に東博のボランティア有志が始めた留学生の日のイベントであることがわかった。そして2019年からイベントが増加し始め、さらに各施設で継続して展開されている。イベ

ントを実施している博物館は、職員向けの研修が行われ地域で増加している。また、来館を促し支援するための広報や学びを深める展示や印刷物、ソーシャルストーリーといった発達障害者を対象とした冊子内での活用など多様な取り組みとして広がりつつある。

国は2022年にまとめた「やさしい日本語の普及による情報提供等の促進の在り方報告書」の中で、普及推進のために解決すべき課題として、外国人への接し方の認識の誤解、やさしい日本語の特性に対する認識不足、やさしい日本語の必要性・有効性の認識不足、やさしい日本語化の方法、わかりやすくなっているのかの確認の重要性に対する認識不足をあげている<sup>(28)</sup>。

博物館界で普及するためには上記に加え博物館がやさしい日本語に取り組む意義を理解し、館内で共有することが重要となる。やさしい日本語の取り組みは社会的包摂の一環として、在住外国人だけを対象とした活動ではなく発達障害者や聾者を含むマイノリティに対する言語保障としての必要な対応と捉える必要がある。

そして、やさしい日本語の導入をわかりやすい情報や展示解説についての再考の機会と捉えることである。庵(2023)は日本語母語話者の専門用語に対する「難しさへの信仰」を指摘すると共に、専門家から非専門家への情報提供の観点から、やさしい日本語には2種類を認めるべきことを指摘し、「わかりやすさ」を基準に考える必要を述べている<sup>(29)</sup>。やさしい日本語は、一般の日本人であれば理解できるレベルの日本語表現に言い換えた(書き換えた)もの、そして本稿でも取り上げてきた日本語を学習中の人でもわかる「やさしい日本語」である。今後の解説には、2段階のやさしい日本語が必要となるかもしれない。

各現場の努力は避けられない状況であるがやさしい日本語を展開するためにはやさしい日本語を学び、何よりも実践を重ねる必要がある。単独で取り組むより、地域にある国際協会と連携したりすでに導入している施設に相談することも有効である。さらに博物館の館種やテーマ毎に頻出するやさしい日本語については共に検討する場の開催と知の共有が望まれる。今後も実践を重ねながら各博物館を支援していきたいと考えている。

なお、今回の調査ではウェブページに公開された情報を基本としているため非公開の状況についてはわかっていない。更なる調査を通じて博物館における在住外国人対応、やさしい日本語、わかりやすい日本語について引き続き研究していく予定である。

最後に本稿の執筆にあたりご協力をいただいた東京国立博物館の鈴木みどり氏、東京都生活文化スポーツ局の村田陽次氏にこの場を借りて御礼申し上げる。

## 註

- (1) 文部科学省「令和3年度社会教育調査」総括表より  
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400004&tstat=000001017254&tclass1=000001203281&tclass2=000001203282> (閲覧日: 2024.1.25)
- (2) ICOM の新定義については以下を参照のこと  
<https://icomjapan.org/journal/2023/01/16/p-3188/> (閲覧日: 2023.12.25)  
また、博物館法施行規則第二十一条四では、日本語を理解できない者への配慮が明記されている。

- (3) 文化審議会博物館部会法制度の在り方に関するワーキンググループ (2021)『博物館法制度の今後の在り方について (審議のまとめ)』 pp.15-18
- (4) 高尾戸美 (2023)「科学館が「やさしい日本語」を導入するということ - 多摩六都科学館の多文化共生の実践から -」『金属』 93(8) pp.22-27
- (5) 幕田順子 (2019)「在住外国人の多様化と地域国際化協会の役割 - (公財) 福島県国際交流協会を例として -」『福島大学地域創造』 30巻 2号 福島大学地域創造支援センター p.51
- (6) 出入国管理及び難民認定法 (入管法) (昭和26年政令第319号) では、外国人を「日本の国籍を有しない者」と規定されている (同法2)。外国人が日本に入国・在留し活動をするには一定の在留資格を要する (同法2の2) としている
- (7) 観光庁 (国土交通省) (2011)『博物館等の文化施設における外国人旅行者の受入に関する調査業務報告書』 p.50では、各施設の外国人来館者数年間来館者数に占める外国人来館者数の割合 (人数) の項目で「印象での回答を可として尋ねた」と記載がある
- (8) 2018年の改正時に新たな外国人材の受入れのために在留資格「特定技能」が創設された
- (9) 公益財団法人東京都歴史文化財団事務局総務課 (2017)「文化施設のための多言語対応ガイド」 pp.2-7
- (10) 佐々木秀彦 (2019)「博物館の多言語対応 なにを、どこまで、どうやって」、『全科協ニュース vol.49, No.5』, 全国科学博物館協議会
- (11) 公益財団法人日本博物館協会 (2020)「表3-8-7 バリアフリー対応としての多言語化 (全体/館種別/設置者別)」『令和元年度日本の博物館総合調査報告書』 (2020), p.114
- (12) 観光庁 (国土交通省) 2011「I 外国人旅行者のニーズ把握調査」『博物館等の文化施設における外国人旅行者の受入に関する調査業務報告書』 p.38
- (13) 公益財団法人日本博物館協会 (2020)「表3-8-8 使用する言語 (全体/館種別/設置者別)」『令和元年度日本の博物館総合調査報告書』 (2020) p.115
- (14) 例えば、浜松市科学館は英語、韓国語、中国語 (簡体字) に加え、ポルトガル語のページがある。 <https://www.mirai-ra.jp/pt/> (閲覧日: 2023.12.25)
- (15) 一般社団法人東京都つながり創生財団 (2022)「2-1. 「やさしい日本語」を知っていますか?」「2-6. やさしい日本語による情報発信を希望しますか?」『やさしい日本語を活用した在住外国人への情報伝達に関する調査』 p.11, p.15
- (16) 庵功雄 (2020) 第1章「やさしい日本語」の歴史, 『「やさしい日本語」表現事典』, pp.2-5
- (17) 庵功雄・岩田一成・佐藤琢三・柳田直美編 (2019)「〈やさしい日本語〉と多文化共生」ココ出版
- (18) 国立アトリサーチセンターでは、ソーシャルストーリーブックについて「主に発達障害がある方とその家族に向けた美術館案内です。発達障害の方をはじめ、美術館にはじめて訪問する方、利用することに不安を感じる方などが、どなたでも美術館を楽しみながら過ごすことができるよう、わかりやすく説明した冊子です。」と説明している

- <https://ncar.artmuseums.go.jp/about/learning/> (閲覧日：2023.12.25)
- (19) 留学生の日イベント内容については長期間で変わっている。またコロナ禍により実施できていない年もある。また、やさしい日本語の参考は、埼玉県総合政策部国際課 (2006) 「埼玉県外国人にわかりやすい日本語の手引き」である  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/5978/379176.pdf> (閲覧日：2023.12.25)
- (20) 九州国立博物館『文化交流展示室マップは、「見やすく、分かりやすく、」そして「触れるように」になりました!』<https://www.kyuhaku.jp/news/news-230601.html> (閲覧日：2023.12.25)
- (21) 東京都現代美術館「あ、共感とかじゃなくて。」では、「展示室でのすごしかた」感覚特性のある方、美術館に慣れていない方へ、「作品の楽しみかた」見通しが立ったほうが作品を安心して鑑賞できる方への2種類のガイドの中でやさしい日本語を用いている  
<https://www.mot-art-museum.jp/exhibitions/empathy/> (閲覧日：2023.12.25)
- (22) 株式会社 Dank 「【館内ガイド制作】国立科学博物館「やさしい館内ガイド」の編集・デザイン」<https://dank.jp/casestudy/kahaku/> (閲覧日：2023.12.25)
- (23) 多摩六都科学館 [https://www.tamarokuto.or.jp/easy\\_japanese/](https://www.tamarokuto.or.jp/easy_japanese/) (閲覧日：2023.12.25)
- (24) 東京都渋谷公園通りギャラリー <https://inclusion-art.jp/> (閲覧日：2023.12.25)
- (25) 三重県立美術館ソーシャルガイドは2020年度より導入されているが随時更新されている  
<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/000248624.htm> (閲覧日：2023.12.25)
- (26) [https://jcs.jp/.wps/wp-content/uploads/2021/02/Kenkyuhapyoukai\\_20.pdf](https://jcs.jp/.wps/wp-content/uploads/2021/02/Kenkyuhapyoukai_20.pdf) (閲覧日：2023.12.25)
- (27) 九州地区では九州産業大学美術館が主体となり「大学における文化芸術推進事業」博物館を活用した「健康寿命」増進プログラム開発のための学芸員技術研修会ユニバーサルデザインの観点からやさしい日本語の研修を2020年より各県で開催している
- (28) やさしい日本語の普及による情報提供等の促進に関する検討会議 (2022)「やさしい日本語の普及による情報提供等の促進の在り方報告書」 pp.13-14
- (29) 庵功雄 (2022) 『日本人の日本語』を考えるプレイン・ランゲージをめぐって』 pp.8-11

(國學院大學文学部兼任講師)